



**ZEN-NOH**

CONNECTING

WITH **世界とつなぐ**

THE WORLD

## 資料3

# 『JA全農グループの輸出拡大への取り組みについて』

- I. JA全農グループの海外ネットワーク
- II. これまでの輸出拡大への取り組み
- III. これからの輸出拡大への取り組み

令和 2年11月20日  
全国農業協同組合連合会(JA全農)

# I. JA全農グループの海外ネットワーク

1

2017年4月設立: 全農 輸出対策部、JA全農インターナショナル株式会社



## Ⅱ. これまでの輸出拡大への取り組み

2

### 米 国 へ

#### 1. 和牛加工処理施設の設置（2017年12月～）



全農職員が駐在、カット技術を現地で指導



ロサンゼルスに現地企業と共同出資の牛肉加工会社を設立。消費者向カット商品を提供しコロナ禍で和牛の外食需要は激減したもののEコマースの和牛販売が好調で、全農の米国向け牛肉輸出量は前年実績を大幅に伸長。

### 中 東 へ

#### 3. ハラル和牛を新たに中東へ輸出（2019年5月～）

農林中金・みずほ銀行の参画するファンドの投資先であるUAEの卸会社を通じ、国産和牛輸出を実現。昨年4月から全農出資の北海道内施設でハラル屠畜された北海道サロマ牛（フルセット・一頭売）をドバイの消費者に販売



ハラル対応生産の紹介

現地事業者に加工指導

知名度向上に向け、サロマ牛プロモーション

### 香 港 へ

#### 2. 付加価値を付けた米の輸出（2020年11月）

香港の現地企業へ炊飯機器を一部設備投資。ビジネスランチ向けの米の新たな販売先を開拓



全農食品(株)の炊飯給食技術を供与、食味・品質を向上。ビジネスランチ向けの米輸出拡大、将来的に、惣菜等の原料や現地給食事業へ日本産食材の活用を期待。

### 世界各地へ

#### ◆ 海外和牛レストランの展開（香港・2店舗）

香港で焼肉レストラン「純」を展開し和牛の食べ方、日本食の魅力を発信

#### ◆ 海外進出の日系外食企業へ原材料を提供

スシロー・台湾・香港・シンガポール店へ原料米を販売、変わらぬ日本の味を世界へお届け

#### ◆ 複数産地を全農ブランドで結びリレー出荷（香港）



複数産地の甘藷を全農ブランド包装で統一、リレー出荷で長期販売へ

### Ⅲ. これからの輸出拡大への取り組み - (1)

3

#### 米国・アジアへ

#### 1. PPIH(ドンキホーテグループとの取組

全農グループは2017年からアジアを中心に多店舗展開をはかるPPIH（ドンキホーテ）グループへ販売を開始。今年10月に発足した同グループのパートナーシップ組織（PPIC）に、JA全農インターナショナル(株)が参画し、積極的な商品供給を行い、連携して輸出拡大をはかる。



安定供給をサポート

#### 全農グループ

- 機能① JA等から農畜産物を調達
- 機能② 産地リレー等による安定供給
- 機能③ 新たな食材・加工品の提案 など



#### 中国へ

#### 2. サントリーホールディングスとの共同商品開発

サントリーホールディングス×ホクレン×全農グループで共同し、「北海道産プレミアムりんごジュース」を開発し、新たな需要を創造。今後も新たな商品を開発。サントリーグループのマーケティング機能、全農グループの素材を活かし、輸出拡大をめざす。



中国総販売者：  
三得利投資有限公司  
（サントリー）  
日本輸出者：  
JA全農インターナショナル  
と記載

商品	700ml瓶・2本入贈答用セット -JA余市産りんご100%使用 -発売日：2020年12月上旬 -販売量・試験販売1800セット
価格	富裕層をターゲットに発売、徐々に価格弾力性のテストを予定
販売	サントリー食品Tmall(ECコマースサイト)旗艦店を主に、春節向け贈答品として展開
PR等	・顧客層へデジタルPRを検討 ※KOL・SNS等を活用予定、農園画像や石川佳純選手の紹介動画も使用予定 ・贈答受手の需要もサンプル調査を予定

贈答用包装/セット

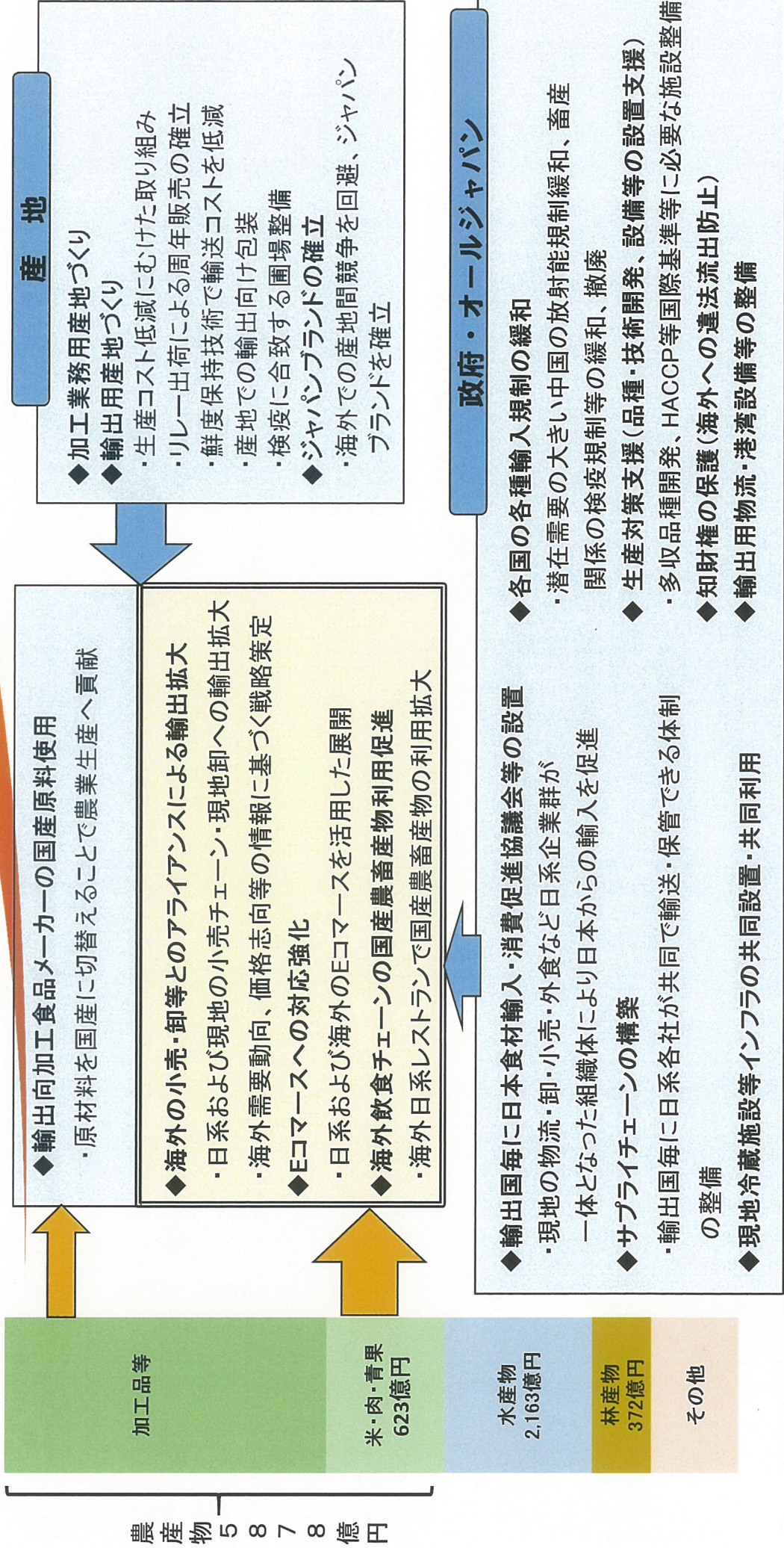
# Ⅲ. これからの輸出拡大への取り組み - (2)

2019年1兆円

2019年実績  
9,121億円

2030年5兆円へ

全農グループは、目標を立てて農業生産に資する輸出拡大に取り組み



日本の食料需給と国内人口推移予測

食料需給表 (2019年度)

単位：万 t

	国内生産量	輸入量	国内消費 仕向量
穀類	950	2,480	3,300
米	820	90	830
とうもろこし	0	1,620	1,580
野菜	1,170	300	1,470
果実	270	450	710
その他	590	500	1,100
農産物計	2,980	3,730	6,570
肉類	340	330	660
鶏卵	260	10	270
牛乳及び乳製品	740	520	1,240
畜産物計	1,340	860	2,170
合計	4,320	4,580	8,740

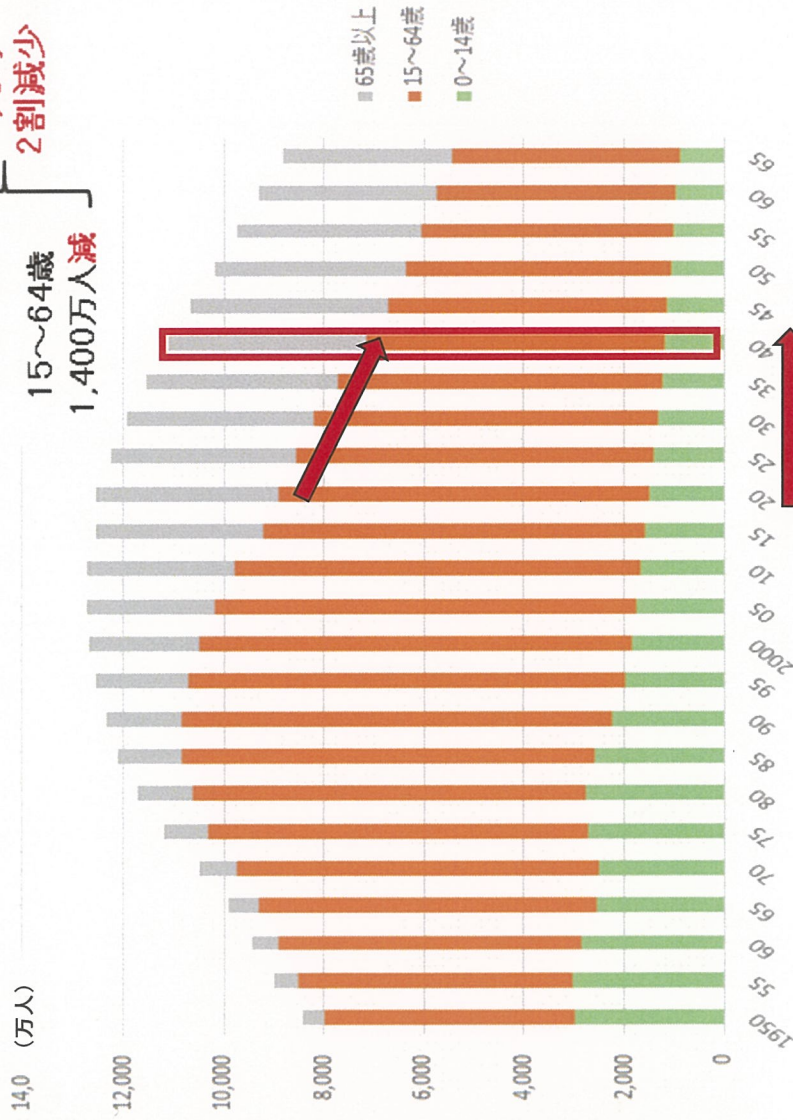
(注) 農産物の「その他」はいも類、でんぷん、豆類の合計。  
農林水産省「食料需給表」をもとに全農作成。  
※在庫、その他仕向で合計は合致しない。

食べ盛り、働き盛りの層の減少

20年後は……

人口動態の推移

0～14歳  
300万人減  
15～64歳  
1,400万人減  
今より  
2割減少



(注) 内閣府「令和元年度高齢社会白書」をもとに作成